

粉体工学・粉体技術と“社会貢献”

Powder Engineering, Powder Technology and Social Contribution



佐藤 浩二*
Koji Sato

わたしは“社会貢献”という言葉が好きで、よく使います。一般社団法人粉体工学会と姉妹団体である一般社団法人粉体工業技術協会（APPIE）の理事として協会運営に携わり、APPIE 粉体技術誌の副編集委員長として活動することで、勝手ながら自分は社会に貢献していると考えています。実際、APPIE の様々な活動（粉砕・分級・造粒・晶析・計測などの分科会や展示会 POWTEX 運営）は、日本の製造業全体を底上げすることに貢献していますし、粉体技術誌は、幅広いテーマの「特集記事」を通じて、ある時は読者にホッと一休みして頂き、そしてある時は、電池などの先端アプリケーションや炭素・ケイ素などの機能性材料に深く入り込むことで業務遂行の参考にして頂いております。

そして、本業における“社会貢献”です。今年販売開始 50 周年を迎えている弊社マイクロトラック（レーザ回折・散乱式粒子径分布測定装置）は、様々な分野の研究開発・製造技術・品質管理で使用頂いています。日本だけでも 4 千台を超える販売実績があり、電子部品、電池、食品、製薬、化粧品などの日本のモノづくりに大きく貢献してきました。粉粒体加工技術（粉砕・分級・造粒・晶析など）の進化に伴い、加工処理の結果を評価する測定装置に求められる精度も厳しくなってきましたが、その要求に応えることで 50 年の長きにわたり産業の発展に貢献してきたのです。私自身は、1990 年からその販売に携わっています。2030 年、還暦を少し過ぎたころに個人的な 40 年間記念を迎えますが、マイクロトラック販売と APPIE 活動の両面から、これからも精一杯の社会貢献を実施していきたいと考えています。

社会貢献だけでは生活できないので、まずは基本的な要求・欲求を満足させる必要があります。サラリーマンとして少しでも上を目指して、若い頃は営業活動に邁進していました。しかしながら、収入や社会的地位だけでは満たされないのが人というものです。15 年程前、日機装(株)精密機器事業部 計測機器部（主にマイクロトラックを取り扱う部門）の部長を拝命した際、日本経済新聞の人事欄に名前が掲載されました。悪事を働かずして新聞に掲載されるのは名誉なことであり、家族や友人に大いに自慢しました。しかし、毎日が大変な激務であり、

心身ともに疲弊していたことを思い出します。その苦しい時期に「マイクロトラックを使用することで日本の製造業が成り立っている」という考えが強烈に浮かび、仕事の“やりがい”となったのです。そのため、今も自分を鼓舞するキーワードとして“社会貢献”を使用しています。

話は変わりますが、非営利団体である一般社団法人には、さまざまな設立目的があります。粉体工学会と粉体工業技術協会について、学会の設立目的と各機関誌の役割をウェブサイトから引用します。

【粉体工学会 / 粉体工学会誌】

（引用）「粉体に関わりを持つ科学者、技術者の討論と研鑽の場としての粉体工学会があります。」

（引用）「粉体工学会誌は、1964 年に創刊された粉体工学会研究会誌を前身とし、1978 年により発行されている歴史ある学会誌です。国内外から高い支持を受けており、学術論文はもとより、総説・解説、講座・講義といった粉体関連技術を学ぶことができる記事の他にも様々な読み物が掲載されています。」

【粉体工業技術協会 / 粉体技術（特集記事）】

（引用）日本粉体工業技術協会とは、粉体に関する鉱工業技術の開発及び普及を通じて粉体関連工業の発展を図り、わが国経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与することを目的とした一般社団法人です。

（引用）「粉体に関する技術情報を独自の視点で取り上げたテーマや経営・営業、製品開発や生産技術にも役立つ情報を掲載」

また、粉体工学会 後藤会長の言葉を引用します。

（引用）産学連携を通じて粉体工学と粉体技術を発展させるため、粉体技術に関連した企業の集まりである（一社）日本粉体工業技術協会を重要なパートナーとして協同体制を築いています。

粉体工学会（学術団体）と粉体工業技術協会（同業者団体）ほどに、役割分担が明確で適切な協同体制が整っている姉妹団体を他に知りません。機関誌である粉体工学会誌（論文誌）と粉体技術（知恵の広場、読み物）も同様です。粉体技術の編集委員として、粉体工学会誌との連携を強めて少しでも読者に役立つ機関誌としていくことで、業界全体の底上げに貢献していきたいと思えます。

読者の皆様には、Unique で Cutting edge な論文をドンドンと世に出していくことで、“社会貢献”して頂ければ幸いです。

〈著者紹介〉

1990 年山形大学工学部化学工学科（現物質工学科）卒業後、同年日機装(株)入社、2014 年マイクロトラック・ベル(株)へ転籍、現在に至るまで一貫してマイクロトラックビジネスに従事。

* 連絡先 k.satou@microtrac-bel.com